

平成27年度

ステップアップ

* 学習の手引き *



2 年 組 番	氏名
---------	----

この学習の手引きは、授業の受け方・家庭学習の勉強の仕方・テストに向けての勉強の仕方や各教科の学習内容や評価の方法について、皆さんにお知らせするものです。

学習の手引きを利用して、学習計画をたてると、見通しをもって学習に取り組むことができます。

大いにこの学習の手引きを活用して、自分自身をステップアップできるように、役立ててください。



授業の受け方

1 はじめに

- (1) 教科書・ノート・ワーク等を机の上に準備しておきましょう。
- (2) 教科係は授業が始まる前に諸準備を整え、連絡等を伝えましょう。
- (3) 号令の前にノートを開き、前時にどんなことを学習したのか確認しましょう。

2 学習のポイントをしっかりとつかもう

- (1) 先生の説明や仲間が発表しているときは、話をしている人のほうを見て聞きましょう。
- (2) 黒板に書かれたことで大切なことは、ノートに書きましょう。また、口頭による説明などもノートに書いておくと復習の時に役立ちます。
- (3) 分からないことは積極的に質問しましょう。「後で調べればいいや」「後で誰かに聞こう」と何でも「後で」にしてしまうと、理解していないまま授業を受けることになり、よけいに分かりづらくなります。

3 おわりに

- (1) 今日の学習を振り返り、重要点と課題の確認をしましょう。
- (2) 号令の後、次の授業の準備をしてから休憩しましょう。

4 チェックポイント

- (1) 授業に必要なもの（教科書・ノート・資料・筆記用具等）の準備はできていますか。
- (2) 宿題は家できちんと行っていますか。
- (3) 授業中に、おしゃべりなどしていませんか。
理解不十分なところを質問していますか。
- (4) ノート整理がなされていますか。

授 業 は

- ・ まちがうところ
 - ・ 気づくところ
 - ・ わかるところ

学カステップアップ (～授業編～)

授業＋家庭学習＝学力向上

国語

- 漢字・語句ノートをしっかり行い、わからない漢字や語句をなくしてから授業に臨みましょう。
- 授業に必要な学習用具を忘れずに準備しましょう。
- 「話すとき」「書くとき」「聞くとき」「考えるとき」の区別をしっかりつけ、授業に集中して取り組みましょう。
- 友達の発表を聞いて、自分の考えを深めるようにしましょう。
- ノートは、板書を写すのではなく、自分でポイントを絞ってわかりやすく創りましょう。
- わからないところは、質問してわかるようにしましょう。

社会

- グラフ・図・地図など、一通り必ず目を通して、特徴や変化に注目しましょう。
- 疑問に思ったことは、すぐに質問しましょう。
- 友達の発表をよく聞き、自分と違う点から、いろいろな考え方・見方をつかみましょう。
- 聞く、書く、考える等の学習の区別をして取り組みましょう。
(書きながら聞くことは難しいです。)

理科

- 自然について、疑問や不思議だと思ったり、感動する心を持ち続けましょう。
- 自分で考え、間違いをおそれずに発表しましょう。発表することは自分の頭を鍛えてくれます。
- 積極的に実験や観察に取り組みましょう。その後、実験・観察をレポートにまとめることで、わかったこと・更なる疑問をはっきりさせることができます。
- 基本操作や重要な語句は、必ずノートにまとめましょう。
また、単元の区切りには章末問題などに取り組み、知識を確かなものにしましょう。

数学

- 授業を大切にしましょう。
- 「チャイム1分前着席」を守り、5分の計算プリントに取り組みましょう。
- 学習用具を忘れずに準備しましょう。
(教科書・ノート・問題集・ファイル・三角定規・コンパスなど)
- 先生の説明や友達の発表は注意深く聞きましょう。
- 自分の考えは積極的に発表しましょう。また、疑問に思ったことやわからないことは質問しましょう。
- ノートをわかりやすく丁寧にまとめましょう。
- 配られたプリントやテストは、すぐにファイルにとじたり、ノートに貼りましょう。
- 提出物は期限を守って提出しましょう。

英語

- 英語に関心をもち、積極的にコミュニケーション活動に取り組みましょう。
- 英語を用いて、自分の考えや気持ちなど、伝えたいことを話したり書いたりして表現しましょう。
- 英語を聞いたり読んだりして、相手が伝えようとすることを理解しましょう。

音楽

- 学習用具を忘れずに準備しましょう。
(教科書・合唱ノート・学習ファイル・ソプラノリコーダー)
- いろいろな音楽に触れ、想い、創り、奏で、興味を持って取り組み、心を豊かにしましょう。
- 表現活動(歌唱・器楽)、鑑賞活動、創作活動を通して自分を表現しましょう。
- 友達と心を一つにして曲を作りあげましょう。



美術

- 描画用の鉛筆やスケッチブック等、連絡した持ち物を必ず持ってきてきましょう。必要なものがないと活動ができなくなってしまいます。
- いろいろなことに興味を持って取り組みましょう。友達と違ったアイデアが出せことは素晴らしいことです。自信を持って表現しましょう。
- 自分らしい作品を作りましょう。自分の「好き」を大事にしましょう。
- 友達の表現(作品)のよいところを見つけられるように心がけましょう。
- 作品はていねいに作り、自分の作品も友達の作品も大事にしましょう。

保健体育

- 今日の健康状況を確認してから授業に臨みましょう。
- 服装・頭髪など、身なりをしっかりと整えましょう。
- 用具や活動場所の安全を確認し、活動しましょう。
- 自分の学習課題をしっかりと持って授業に臨みましょう。
- 目標達成に向け、みんなで協力して取り組みましょう。
- 時間前に活動場所へ移動しましょう。
- ランニングや準備運動をしっかりと行いましょう。

技術・家庭

- 「各自の目標を達成するにはどうしたらよいか」という意識をもって学習に取り組みましょう。
- 授業では作品づくりや実習などの作業を通して、学習活動で生じた課題の解決に迫ります。学習した内容をどんどん使うことが自分の技術力を身につけることにつながります。
- 学習用具を忘れずに準備しましょう。
(教科書・技術科ファイル・家庭科ノート)
- 技術科：技術室の時はジャージで行います。
- 家庭科：調理実習時には、エプロン・三角巾・マスク・手拭きタオル・雑巾・調理に必要な材料を準備しましょう。

学カステップアップ (〜家庭学習編〜)

授業＋家庭学習＝学力向上

家庭学習の基本 ふ・か・ま・り

- ふ** 復習を中心に少しずつでも毎日！
～その日の授業のノートを開いて再確認～
- か** 書いて、声に出して、繰り返し練習！
～五感を最大限に使って、脳に刺激を～
- ま** 丸暗記ではなく、納得が大事！
～「なるほど！そうか！」が記憶につながる～
- り** 理解するまでじっくりと！
～考えてわからなければ、質問しよう～

国語

- 教科書をしっかり読めるか確認する。
- わからない語句がないか確認する。
- 漢字の書き取りを繰り返し練習する。
- ノートの整理をする。
- ワークの問題を解き直す。
- 古典はできるだけ暗記する。
- ※さらに力を高めるには、様々な文章に触れましょう。これは、自らの意識が必要です。さあ！ がんばろう！！

社会

- その日の授業の内容を思い出しながらノートやワークシートを振り返る。
- 太文字や赤字の大切なごくは、覚えるまで繰り返し書く。
- 頭の中でどんな状況なのかをイメージしながら教科書を読む。
- 地名が出てきたら必ず地図で場所をチェックする。
- 自分なりに学習した内容をまとめる。
- キーワード（重要語句）を自分の言葉で説明できるようにする。（キーワード同士のつながりがつかめます）
- ※社会科はイメージすることが大切です。文章から、地図からイメージしよう！

効果的な学習 5ヶ条

- 1 集中して学習！毎日継続！（15分×学年）
- 2 習慣化 ～時間と場所を決めて～
- 3 計画的に
- 4 自分で学習
- 5 復習はその日のうちに！！
予習は短時間で効果的に！！

数学

- STEP 1** 数学が苦手の人・何をしてよいのか分からない人
○教科書、ワーク、問題集の計算問題を解く。
- STEP 2** 計算はだいたいできる人
○「ちょっと難しいな」と思う程度の問題にじっくり取り組む。
- STEP 3** 得意な人、さらにレベルアップしたい人
○問題の数をこなすと同時に、難問にもチャレンジする。

理科

- 教科書の基本的な内容を覚える。
用語とその意味：セットで覚える。
実験の方法：使う道具・薬品・注意事項
図表やグラフ：位置や名称、数値からわかる規則性
- 問題は難解も繰り返し、3回以上取り組む。
- 教科書の文章を理解できるまで読む。
※教科書を読んで内容が分からない時は、まだ理解していない証拠。そこをチェックして先生に質問しよう！

英語

- ノートに英文を書き、単語の意味を調べ、授業の予習をする。
- 基本文や新出単語を繰り返し書いて覚える。
- 教科書を毎日声を出して読む。
※身の回りには英語があふれています。関心をもとう！英語は楽しい！使える！という意欲をもとう！

学カステップアップ (〜テスト編〜)

テスト勉強の基本

- (1) 範囲発表〜 テスト範囲を確認し、教科書に範囲を書き込む。ここで具体的な勉強計画をたてる。
- (2) 2週間前〜 教科書の太文字やノートの赤字などを繰り返し書く。
- (3) 1週間前〜 範囲内の教科書を読み直し、ワークに取り組んで、まるつけをする。
- (4) 3日前〜 ワークにもう一度取り組み、できなかったところは覚えるまで書いて練習する。
- (5) 前日〜 最終確認。教科書やワーク等を見直し、不安なところを中心に、学習し直す。
- (6) 当日〜 朝の時間や10分休みに友達と問題を出し合って最終チェック！テスト中は集中して絶対にあきらめない！

STEP 1 教科書こそが原点と心得よ！

STEP 2 ワークを繰り返すと実力アップ！

STEP 3 計画的な学習・規則正しい生活が本物の力を生む！

国語

- 教科書を表現に沿ってしっかり読む。
- 語句が文脈の中でどう使われているか考え、意味を調べる。
- ノートをもう一度読み、書いてあることを見直す。
- ワークの問題は覚えるくらいまで復習する。
- 漢字は書いて覚える。
- ※古典や文法など、暗記ができるものは、覚えよう。
- ※復習あるのみ！ がんばってみよう！

社会

- ワークに取り組む自分でまるつけをする。
- ワークで間違えたところを繰り返し、覚えるまで書いて練習する。
- グラフ・図・地図などに気をつけながら、教科書を読み直す。
- 教科書の太字やワークシートの重要な語句を写し、何度も書いて覚える。
- ※特に社会は努力が点数につながりやすいぞ！ 逆に手を抜いたら・・・

数学

- できるだけ多くの問題を解き、その都度まるつけをして、間違えたところを確認する。
- よく間違えるところ、理解していないところを重点的に取り組む。
- 教科書、問題集の問題は必ず一通りやる。
- わからないところは先生に質問に行く。
- ☆すてきな情報が得られるかも！
- ※「あっ、前にやったのと同じ問題だ！」と思えるまでひたすら解きまくろう！

理科

- 問題（自主学習や補充問題など）を何度も解いて、学習内容を徹底的に定着させる。
- 計算や記述問題は、できるようになるまで、繰り返しやる。
- いくら考えてもわからないものは解答・解説を見ても構わないが、それで終わらせない。自分で解けるようになるまで徹底的にやる。
- ※毎日の家庭学習の積み重ねこそが、最良のテスト勉強です。

英語

- 授業後にわからなかったことをそのままにしない。（単語の発音、意味など）
- 教科書・重要表現の音読と書き取りを繰り返し行う。
- ノート、ワーク、プリントを何度も繰り返して練習する。
- ※テストの直後が肝心！ 答えが返されたら必ずやり直して理解できるようにし、次の準備をしよう！

2年 国語科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法
1	国語への関心を深め、国語を尊重し進んで表現・理解するとともに伝え合おうとする。	○授業に取り組む態度（発表や質問など） ○課題の提出状況とその内容 ○既習内容を発表させようとする意欲
2	自分の考えを目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	○定期テスト、単元テスト ○授業での発言の仕方とそれに対する応答
3	自分の考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて文章に書く。	○定期テスト、単元テスト ○作文、感想文、伝えたいことを記述したレポート
4	目的に応じ、様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	○定期テスト、単元テスト ○授業での発言内容 ○ノートの記述内容
5	言葉の働きや意味を理解し知識を身につけている。書写では文字を正しく整えて速く書く。	○定期テスト、単元テスト ○音読、暗唱 ○漢字、語句の適切な活用 ○手書き文字（硬筆・毛筆）

2 2学年の学習内容と観点別の目標

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
文学的文章	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを述べたり、ほかの人の意見を注意深く聞くことができる。 作品を読んだ感想を、相手に効果的に伝わるように書くことができる。 描写や表現に注目して読み、登場人物の心情や作品の主題をとらえることができる。 文脈の中で語句の意味を理解すると共に、新出漢字を練習し、覚えることができる。 	観点2 観点3 観点4 観点5
説明的文章	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを工夫して述べたり、相手の意見に耳を傾けることができる。 筆者の意見をとらえ、それに対する自分の考えを文章にまとめて書くことができる。 文章の構成や論理の展開をとらえ、筆者の考えを読み取ることができる。 文脈の中で語句の意味を理解すると共に、新出漢字を練習し、覚えることができる。 	観点2 観点3 観点4 観点5
古 典	<ul style="list-style-type: none"> 読み取った場面の状況や人物像について話し合うことができる。 作者と自分の感じ方などを比較しながら、自分の考えを文章にまとめられる。 描かれている情景や心情、作者のものの見方・感じ方を読み取ることができる。 古典の仮名遣いや言葉の使い方、言い回しを理解し、覚えることができる。 	観点2 観点3 観点4 観点5
韻 文	<ul style="list-style-type: none"> 詩や短歌を読んで、感じたことや思い浮かべたことを発表し合うことができる。 それぞれの詩や短歌の情景や心情をまとめて書くことができる。 作者の思いが込められている表現を指摘し、その思いが伝わるように朗読できる。 詩や短歌の形式や表現技法を知り、自分の作品作りに生かすことができる。 	観点2 観点3 観点4 観点5
表 現	<ul style="list-style-type: none"> 情報を的確に聞き取ったり、自分の意見を工夫して提案したりすることができる。 自分の伝えたい事柄が明確に読み手に伝わるように、情報を整理・編集して書ける。 書き上げた文章を友達同士で推敲し合い、表現を練り上げることができる。 文脈に合った語彙を使い、話し言葉や書き言葉に注意して表現することができる。 	観点2 観点3 観点4 観点5
言語・漢字 文法・書写	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの言語生活を振り返り、正しい日本語を用いて、話すことができる。 辞書を常に手元に置き、目的に応じた文章を正しい表現や文字で書くことができる。 同じ訓や音を持つ漢字、複数の読み方をする漢字を正しく読み分けることができる。 漢字や語句を適切に使い分けられる。硬筆や毛筆の文字を正しい字形で速く書ける。 	観点2 観点3 観点4 観点5

(観点1は日常の学習活動により評価します。)

2年 社会科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法
1	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、よりよい社会を考え自覚を持って責任を果たそうとする。	○授業に取り組む態度（発表や質問） ○課題（問題集、ノートなど）の提出状況 ○小テストへの取り組み
2	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	○定期テスト、単元テスト ○ノートの記述内容や授業での発表内容
3	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	○定期テスト、単元テスト ○ノートの記述内容や授業での発表内容
4	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。	○定期テスト、単元テスト ○授業での発表内容

2 2学年の学習内容と観点別の目標

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
近世の日本	<ul style="list-style-type: none"> 幕府の政治改革など、社会の変化を多面的・多角的に考察できる。 幕府政治が行き詰まった様子を史料や図版を用いて説明できる。 産業や交通の発達や文化の変化した歴史の流れを説明できる。 	観点2 観点3 観点4
開国と近代日本の歩み	<ul style="list-style-type: none"> 明治新政府が行った政策が、社会にどのような影響を与えたか考察できる。 史料や図版から、社会の変化を読み取ることができる。 明治新政府が行った政策の目的と内容を説明できる。 	観点2 観点3 観点4
現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> 経済成長が社会におよぼした影響を考察できる。 グラフと写真資料から日本の国民生活が変化したことを説明できる。 戦後の日本に起こった出来事や用語の意味がわかる。 	観点2 観点3 観点4
世界から見た日本のすがた	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本、日本の国内の地域間を比較し関連付けて考察するとともに、学習活動を通して明らかになった日本の地域的特色について、簡単な説明文にまとめるなど適切に表現している。 日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から学習するために、地球儀や各種地図・統計資料などの役割を理解して収集し、適切に選択するとともに、地図や図表などにまとめたり発表したりしている。 「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結び付き」の四つの観点について、世界的視野から見た日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色を理解するとともに、地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けている。 	観点2 観点3 観点4
日本の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> 日本の諸地域の地域的特色を、ある地理的事象を中核として、他の地理的事象と関連付けるなど多面的・多角的に考察している。 日本の諸地域の地域的特色をとらえるため、地図や統計、写真など、様々な資料を収集している。 日本の諸地域の自然環境や人口、産業などの特色などについて概観し、その結果として基礎的・基本的な知識を身に付けている。 	観点2 観点3 観点4
身近な地域の調査	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の地理的事象を、位置や空間的な広がりとの関わりからとらえて、適切な調査テーマを設定している。 地図や写真、統計など身近な地域に関する様々な資料を収集し、それらの中から有用な情報を選択して、地域の特色や課題、変化の様子を読み取っている。 縮尺、方位、等高線、地図記号など地形図の読み取り方を身に付けている。 	観点2 観点3 観点4

(観点1は日常の学習活動により評価します。)

2年 数学科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法
1	数学的な事柄に関心を持ち、その楽しさやよさを知り、進んで問題解決に活用しようとする。	○授業に取り組む態度（学習したことを使った発表や質問など） ○課題（問題集、ノート、ファイルなど）の提出状況
2	問題解決のために、数学的な見方や考え方を使い、筋道を立てて考える。	○定期テスト、単元テスト ○ノートの記述内容や授業での発表内容
3	正しく計算したり、票や式やグラフに表したり、図形の性質を調べたりする。	○定期テスト、単元テスト、計算プリント ○ノートの記述内容や授業での発表内容
4	用語・記号や公式・定理・法則などについて理解し、知識を身につけている。	○定期テスト、単元テスト ○授業での発表内容

2 2学年の学習内容と観点別の目標

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
式の計算	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて変形した式をもとに数量関係を考察することができる。 加減乗除の混じった式の計算が正しくできる。 用語の意味を理解し、文字を用いて事象を一般的に説明できる。 	観点2 観点3 観点4
連立方程式	<ul style="list-style-type: none"> 連立方程式を利用して、問題を解決することができる。 必要に応じて代入法と加減法を使い分けて解くことができる。 具体的な場面において、問題解決の考え方や手順を理解できる。 	観点2 観点3 観点4
一次関数	<ul style="list-style-type: none"> 表・式・グラフや変化の割合を用いて一次関数の特徴を考察できる。 一次関数の表・式・グラフに表すことができる。 一次関数に関する用語・記号・グラフの特徴について理解できる。 	観点2 観点3 観点4
図形の調べ方	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質を使って角度を求めるなど筋道を立てて考えることができる。 図形の性質を使っていろいろな角度の大きさを求めることができる。 図形の基本的な性質に関する特徴や用語について理解できる。 	観点2 観点3 観点4
図形と合同	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質の証明を通して考察することができる。 図形の性質や条件を証明することができる。 三角形や四角形についての用語・記号や性質について理解できる。 	観点2 観点3 観点4
確率	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな事象の確率を考察することができる。 起こり得る場合を順序よく整理し、確率を求めることができる。 簡単な場合について、確率を求める方法を理解できる。 	観点2 観点3 観点4

(観点1は日常の学習活動により評価します。)

2年 理科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法	
1	自然の事柄に関心をもち、それらを生活に結びつけて考え、調べようとする。	○学習態度 ○ノート・ワーク	○実験の予想・感想 (レポート) ○長期休業中の課題
2	自然の事柄の中に問題を見つけ、観察・実験などから総合的に考え、表現する。	○定期テスト ○小問題 (発想を問うもの)	○実験の考察 (レポート) ○データ処理・グラフ
3	正しい操作方法で観察・実験を行い、記録する。	○定期テスト ○実験の記録 (レポート)	○観察・実験器具の操作 ○パフォーマンステスト
4	自然の事柄について、基本的な特徴や原理・法則などを理解し、知識を身につけている。	○定期テスト ○発表内容	○小テスト

2 2学年の学習内容と観点別の目標

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
化学変化と原子・分子	・化学変化により、異なる物質が生成することを見いだすことができる。	観点2
	・化学変化をモデルで説明することや化学反応式で表すことができる。	観点3
	・熱分解や電気分解、化合の実験装置を適切に使い、生成した物質を特定することができる。	観点4
	・化学反応に関係する物質の質量を測定する実験を適切にできる。	
動物の生活と生物の変遷	・物質は原子や分子でできていることや化合物の組成は化学式で表されることを理解し、活用することができる。	
	・消化と吸収、外呼吸と内呼吸、血液の循環、刺激と反応など生命を維持する働きを身近な動物の観察や実験から見いだすことができる。	観点2
	・感覚器官や唾液の働き、血液の観察等の実験を的確に行うことができる。	観点3
	・顕微鏡を適切に扱い、植物細胞と動物細胞のつくりの相違点を観察することができる。	観点4
電流とその利用	・動物の体のつくりと働きについて理解することができる。	
	・動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解することができる。	
	・静電気、電流、電圧、磁界について、日常生活や社会と関連づけて見たり、考えたりすることができる。	観点2
	・電気回路を正確につくり、電圧計・電流計を適切に扱い、観察・実験を行うことができる。また、実験のデータをグラフ化することができる。	観点3
天気とその変化	・静電気の起こる現象や静電気の性質について理解することができる。	観点4
	・電流と電圧、電流と磁界の関係や規則性を理解することができる。	
	・飽和水蒸気量のグラフから、露天や湿度を見いだすことができる。	観点2
	・前線の通過に伴う天気変化を暖気、寒気と関連づけてとらえることができる。	観点3
	・露点や雲の発生等の実験を適切に行うことができる。	観点4
	・乾湿計や風力計などの気象観測を行い、観測方法や記録の仕方を身につけることができる。	
	・低気圧や高気圧のつくり、気圧の変化と雲の発生、気温と湿度について理解し、天気図や記号、風力などを活用することができる。	

(観点1は日常の学習活動により評価します。)

2年 英語科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法
1	英語に関心をもち、コミュニケーションを図ろうとする。	○授業に取り組む態度 (発表や質問など) ○ペアワーク・グループワークでの取り組み ○課題の提出状況
2	英語を用いて、自分の考えや気持ちなど、伝えたいことを話したり書いたりして表現する。	○定期テスト、小テスト ○授業での発表内容
3	英語を聞いたり読んだりして、相手が伝えようとすることを理解する。	○定期テスト、小テスト ○授業での発表内容
4	英語に関する幅広い知識を身につけている。	○定期テスト、小テスト ○授業での発表内容

2 2学年の学習内容と観点別の目標

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
過去形 (be 動詞, 一般動詞, 過去進行形)	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の表現を用いて、的確に表現できる。 ・過去の表現を含んだ情報を正しく理解できる。 ・過去形 (be 動詞, 一般動詞, 過去進行形) の用法を正しく理解している。 	観点2 観点3 観点4
未来形	<ul style="list-style-type: none"> ・未来形を用いて、的確に表現できる。 ・未来形を含んだ情報を正しく理解できる。 ・未来形の用法を正しく理解している。 	観点2 観点3 観点4
助動詞 must have to 接続詞 that	<ul style="list-style-type: none"> ・must, have to, 接続詞 that を用いて的確に表現できる。 ・must, have to, 接続詞 that を含んだ情報を正しく理解できる。 ・must, have to, 接続詞 that の用法を正しく理解している。 	観点2 観点3 観点4
There 構文 接続詞 when, if	<ul style="list-style-type: none"> ・There 構文, 接続詞 when, if を用いて的確に表現できる。 ・There 構文, 接続詞 when, if を含んだ情報を正しく理解できる。 ・There 構文, 接続詞 when, if の用法を正しく理解している。 	観点2 観点3 観点4
不定詞	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞を用いて、的確に表現できる。 ・不定詞を含んだ情報を正しく理解できる。 ・不定詞の用法を正しく理解している。 	観点2 観点3 観点4
動名詞 文型 (SVC, SVOO)	<ul style="list-style-type: none"> ・動名詞, 様々な文型 (SVC, SVOO) を用いて的確に表現できる。 ・動名詞, 様々な文型 (SVC, SVOO) を含んだ情報を正しく理解できる。 ・動名詞, 様々な文型 (SVC, SVOO) の用法を正しく理解している。 	観点2 観点3 観点4
比較 (比較級, 最上級, 同等比較)	<ul style="list-style-type: none"> ・比較表現を用いて、的確に表現できる。 ・比較表現を含んだ情報を正しく理解できる。 ・比較 (比較級, 最上級, 同等比較) の用法を正しく理解している。 	観点2 観点3 観点4
受動態	<ul style="list-style-type: none"> ・受動態の文の表現を用いて、的確に表現できる。 ・受動態の文の表現を含んだ情報を正しく理解できる。 ・受動態の文の用法を正しく理解している。 	観点2 観点3 観点4

(観点1は日常の学習活動により評価します。)

2年 音楽科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法
1	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	○授業に取り組む態度(発表や主体的な練習など) ○課題(プリント、ノート、作品など)の提出状況
2	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	○定期テスト、実技テスト、作品 ○学習プリントの内容 ○練習過程
3	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	○定期テスト、実技テスト、作品 ○練習過程
4	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。	○定期テスト ○課題(学習プリント)や発表の内容

2 2学年の学習内容と観点別の目標

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
A 表現・歌唱 斉唱・重唱・合唱 愛唱歌 日本の名曲 合唱曲・外国曲	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌おうとしている。 曲趣に応じた発声や言葉の特性を理解して、生かして歌おうとしている。 声部の役割と全体の響きとのかわりを理解して、表現を工夫しながら歌っている。 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解している。 	観点1
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 	観点2
	<ul style="list-style-type: none"> 創意工夫を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 	観点3
A 表現・器楽 リコーダー・打楽器 キーボード・和楽器 アンサンブル活動	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しようとしている。 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏している。 声部の役割と全体の響きとのかわりを理解して、表現を工夫しながら演奏している。 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解している。 	観点1
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 	観点2
	<ul style="list-style-type: none"> 創意工夫を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。 	観点3
A 表現・創作	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくらうとしている。 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくらうとしている。 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解している。 	観点1
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、音楽表現を工夫し、どのように創作するかについて思いをもっている。 	観点2
	<ul style="list-style-type: none"> 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。 	観点4
B 鑑賞 交響曲5番・オペラ 日本の伝統音楽 諸外国の音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わり、音楽の特徴や背景、音楽の多様性に関心をもち、鑑賞する学習に意欲的に取り組もうとしている。 	観点1
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わっている。 	観点4
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の特徴をその背景となる文化や歴史や他の芸術と関連づけて鑑賞している。 日本や郷土の伝統音楽や諸外国の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り鑑賞している。 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 	

2年 美術科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法
1	進んで美術に親しみ、想像の喜びを味わおうとする。	○制作に取り組む姿勢、日常の学習活動 ○提出物（ワークシート等） ○使用する道具の有無（忘れ物はないか）
2	感じたことや考えたことから想像力を働かせて発想し、表現の構想をする。	○制作した作品及び下書き、アイディアスケッチ ○日常の学習活動
3	基礎的技能を身につけ、その技能を高めたり新しい表現方法を試みたりする。	○制作した作品及び下書き、アイディアスケッチ ○日常の学習活動
4	自然、美術作品、身近な造形などのもつよさや美しさを、感じ取ったり味わったりする。	○鑑賞カード等のワークシート ○発言、発表

2 2学年の学習内容と観点別の目標

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
絵画 (点描)	<ul style="list-style-type: none"> 対象を観察し、対象の持つ自然な美しさやかたち、陰影を捉えることができる。 自他の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを味わうことができる。 	観点2 観点4
デザイン (ステンドランプ のデザイン)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉からイメージを広げ、効果的な画面を構想することができる。 配色など既習の具能を生かし、自分なりの表現を展開しながら魅力ある画面づくりができる。 自他の作品を鑑賞し、作品の工夫やよさ・美しさを感じ取ることができる。 	観点2 観点3 観点4
工芸 (ペーパー ナイフ)	<ul style="list-style-type: none"> 使用する時のことを考え、自分にとって使いやすい作品をデザインすることができる。 糸のこぎりや彫刻刀、塗料などを適切に扱い、自分のイメージにあった作品を作り上げることができる。 自他の作品を鑑賞し、作者のこだわりやよさを発見することができる。 	観点2 観点3 観点4
基礎表現 (クロッキー)	<ul style="list-style-type: none"> 対象の入れ方（構図）を考え、描画に取り組むことができる。 対象の形やバランスを捉え、的確に描画することができる。 	観点2 観点3
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 作品の特徴を画面構成や作者の気持ち、つくられた環境なども想像して、味わうことができる。 	観点4

(観点1は日常の学習活動・提出物により評価します。)

2年 保健体育科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法
1	進んで運動し、その楽しさや喜びを味わい、意欲的に学習に取り組もうとする。	○出欠席・見学の状況・服装 (確認) ○意欲・積極性・準備・後片付け (観察・自己評価カード)
2	自分の能力に適した運動の課題解決を目指して、よりよく判断し、活動の仕方を考え工夫している。	○課題の把握 (確認・自己評価カード) ○練習方法や場の工夫・他人へのアドバイス (観察・自己評価カード)
3	運動の特性に応じた技能や、体力を高めるためにふさわしい運動の行い方を身につけている。	○技能の向上・定着 (観察・自己評価カード)
4	運動の意義や特性と健康安全について理解し、知識を身につけている。	○ルールを理解 (観察・小テスト・レポート) ○安全の確保 (観察・自己評価カード) ○学び方の理解 (観察)

2 2学年の学習内容と観点別の目標

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のため、工夫して練習することができる。 基本的動作を正確に行うことができる。 運動の方法を理解することができる。 	観点2 観点3 観点4
陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> 練習方法や競技の仕方を工夫している。 技能を向上させ、記録を高めることができる。 安全に行動することについて理解することができる。 	観点2 観点3 観点4
水泳	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のため、工夫して練習することができる。 各種の泳法で、より長く泳ぐことができる。 安全に行動することについて理解することができる。 	観点2 観点3 観点4
器械運動 (領域選択)	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のため、工夫して練習することができる。 基本的な技能を高めることができる。 安全に行動することについて理解することができる。 	観点2 観点3 観点4
球技 (種目選択)	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のため、工夫して練習することができる。 基本的な技能を身につけ、練習やゲームに生かすことができる。 安全に行動することについて理解することができる。 	観点2 観点3 観点4
武道	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のため、工夫して練習することができる。 基本的な動作や技能を身につけることができる。 伝統的な行動の仕方を理解することができる。 	観点2 観点3 観点4
ダンス	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のため、工夫して練習することができる。 基本的な技能やステップを身につけることができる。 特有のステップを理解することができる。 	観点2 観点3 観点4

(観点1は日常の学習活動により評価します。)

2年 技術・家庭科の学習内容と観点別の目標・評価の方法

1 評価の観点と方法

観 点 (通知票の項目)		評 価 の 方 法
1	生活や技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	○授業に取り組む態度（発表や実習への取り組み） ○課題（ノート・ファイル・レポート・作品）の提出状況
2	生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	○定期テスト、実技テスト、小テスト ○製作した作品 ○授業での発表内容 ○ノート・プリントの記述内容
3	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	○実習での作業内容 ○製作した作品
4	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解している。	○定期テスト、実技テスト、小テスト、プリント ○授業での発表内容 ○製作した作品

2 2学年の学習内容と観点別の目標

<技術分野>

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
A 材料と加工に関する技術	<ul style="list-style-type: none"> ・自然材料である木材とその他の材料を比較し、その特徴の相違について考え、まとめることができる。 ・使用目的や使用条件に即した構想を考え、図で表現できる。 ・さしがね・のこぎり・かんなど、その他電動工具類を適切に使用することができる。 ・材料取りの際に切りしろとけずりしろを理解し、その必要性を説明できる。 ・組み立ての際に区議内容接着剤の使用法を理解し、その機能について説明できる。 ・塗装の目的、塗装の種類、安全な塗装方法について理解し、その説明ができる。 	観点2 観点3 観点4
D 情報に関する技術（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・文書処理ソフトを活用し文章を作成しながら、かな漢字変換や文字飾りなど文書の編集をすることができる。 ・OSの特徴や各種機能を理解し、マウスを操作することができる。 ・情報の大切さを理解し、正しく利用することの重要性を説明できる。 	観点2 観点3 観点3 観点3 観点4

<家庭分野>

内 容	観 点 別 の 目 標	観 点
A 家族・家庭と子どもの成長	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児とのふれあい体験において、課題をもって取り食い、かかわり方が工夫できる。 ・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考え、まとめることができる。 ・家庭生活と地域の人々とのかかわりについて自分の言葉で説明できる。 ・幼児の発達や生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。 ・家族や家族の基本的な機能を知り、家族関係をよりよくする方法を考え、まとめることができる。 	観点2 観点4
C 衣生活・住生活と自立	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と社会生活とのかかわりを考え、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できる。 ・衣服材料に応じた日常着の適切な手入れと補修ができる。 ・環境に配慮した洗濯や着用の仕方、再利用などについて考えることができる。 	観点2 観点3 観点4
D 身近な消費生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫することができる。 ・消費者の権利と責任を知り、トラブルを防いだり対処したりすることができる。 ・自分や家族の消費生活について関心をもち、消費のあり方を考えることができる。 	観点2 観点3 観点4

（観点1は日常の学習活動により評価します。）

学習の振り返り

～前期中間を終えて～

テストを終え、各観点について「学習の手引き」を見ながら自己評価をしてみよう！

教科名	観点1	観点2	観点3	観点4	観点5
国語					
社会					
数学					
理科					
英語					
音楽					
美術					
保健体育					
技術・家庭科					

自己評価：A とてもよくがんばった！ B だいたいできた C まだまだ努力が必要！

前期期末に向けて

<引き続き頑張りたいこと・見直して改善したいこと>

学習の振り返り

～前期期末を終えて～

テストを終え、各観点について「学習の手引き」を見ながら自己評価をしてみよう！

教科名	観点1	観点2	観点3	観点4	観点5
国語					
社会					
数学					
理科					
英語					
音楽					
美術					
保健体育					
技術・家庭科					

自己評価：A とてもよくがんばった！ B だいたいできた C まだまだ努力が必要！

後期中間に向けて

<引き続き頑張りたいこと・見直して改善したいこと>

学習の振り返り

～後期中間を終えて～

テストを終え、各観点について「学習の手引き」を見ながら自己評価をしてみよう！

教科名	観点1	観点2	観点3	観点4	観点5
国語					
社会					
数学					
理科					
英語					
音楽					
美術					
保健体育					
技術・家庭科					

自己評価：A とてもよくがんばった！ B だいたいできた C まだまだ努力が必要！

後期期末に向けて

<引き続き頑張りたいこと・見直して改善したいこと>

学習の振り返り

～後期期末を終えて～

テストを終え、各観点について「学習の手引き」を見ながら自己評価をしてみよう！

教科名	観点1	観点2	観点3	観点4	観点5
国語					
社会					
数学					
理科					
英語					
音楽					
美術					
保健体育					
技術・家庭科					

自己評価：A とてもよくがんばった！ B だいたいできた C まだまだ努力が必要！

1年間を振り返って

<引き続き頑張りたいこと・見直して改善したいこと>